

平成25年度

事業報告

社会福祉法人しろね福社会

特別養護老人ホームしなの園
老人デイサービスセンターしなの園
老人介護支援センターしなの園

平成25年度 事業報告

平成25年度はどの部署においても稼働率を伸ばし、安定した事業実績を残すことができた。内部に目を向けると、ケアマネジメントの観点から利用者一人ひとりに向ける視点が育ち、それを実際のケアに結びつけるということができつつあるように感じる。今後マニュアルの完備、それに基づいた教育体制の整備などの取り組みが必要と考えられる。

平成26年4月消費税の改定があり、それに伴い一部介護報酬の変更もあった。特に難なく進められたが、今後さらに消費税の引き上げも予定されており、平成27年4月には介護報酬の大幅見直しが控えている。周囲の様々な変化はあるものの私たちの目標は、あくまで利用者の皆さんに安心・安全なサービスを提供することにある。その根底の部分を変えることなくいつでも利用者の立場に立って対応し、より質の高いサービスを提供するため個人の方、組織の力を高め前進していきたい。

***** 目 次 *****

第1.	しなの園・沿革史(平成25年度).....	1
第2.	特別養護老人ホームしなの園	
1.	利用者の状況.....	2
2.	医務の活動状況.....	3
3.	給食の状況.....	4
第3.	短期入所生活介護事業.....	5
第4.	通所介護事業.....	6
第5.	居宅介護支援事業.....	7-8
第6.	社会福祉法人しろね福祉会(管理運営部門)	
1.	理事会の開催状況.....	9
2.	防災訓練実施状況.....	10
3.	研修参加の状況.....	11-12
4.	実習生受け入れ状況.....	13
5.	事故発生状況.....	13
6.	ボランティア受け入れ状況.....	14

第1. しなの園沿革史(平成25年度)

月	日	動き
4	1	辞令交付式(新規採用職員5名、内1名障害者雇用)、永年勤続表彰式(10年勤続1名)
	13・14	庄瀬さくら祭り参加
	15～17	特養:お花見ドライブ
	21	白根ローターアクトクラブ様、花の苗植えボランティア
	23	イオン様、黄色いレシート贈呈式
5	1	荘廻瀬神社祭り
	15～	主任ケアマネジャー研修(受講者1名、～7/29)
	23	平成24年度事業・決算 監査
	25	庄瀬小学校運動会参加、見学
	29	第1回理事会
6	6・7・10	白根大風合戦観戦
	11	パソコン大幅入れ替え
	20	新規採用介護職員1名
7	1	新規採用介護職員1名
	17	参議院議員選挙、期日前投票(3名、南区役所にて)
	21	夏の喫茶
8	1	新規採用職員1名
	17	庄瀬農村公園祭り参加
	21	庄瀬地区JAICA交流会(PM)、「和の調べにのせて」(19:30～)、当園にて実施
	21	ノー残業デイ開始(毎月第3水曜日)
	30	給食巡回指導
9	1	新規採用職員1名
	6	特養:ぶどう狩り
	8	肢体不自由児者父母の会主催 ミュージックケア
	9	そよ風保育園様ボランティア
	11	エアジャパン様車椅子整備・清掃ボランティア
	15	敬老喫茶
	16	100歳の利用者へお祝い贈呈(南区区長来園)
	29	しなの園祭り(しなの園駐車場にて、地域の方へもPR)
10	5	南区健康福祉フェア参加
	6	庄瀬地区防災訓練参加
	9	給食業者検討、試食会及びプレゼンテーション(4社参加)
	15～	玄関前キャノピー修繕、塗装(～12/18完了)
	17	第1回防災訓練(法人全体で実施、各事業利用者参加による大規模訓練、その後職員は防災体験)
	21・23・25	特養:いきいき倶楽部バスハイク(県立植物園等)
	23	第2回理事会
11	10	第2回ボランティア感謝祭(38名出席)
	20	新潟労働局パートタイム労働者調査
	20・21・28	給食業者選定に向けて他施設訪問・給食試食(田上園・にいだの里・あじさいの里)
	22	クリスマス喫茶
	28	コピー機入れ替え
12	10	「BSN愛の募金」贈呈式(昇降式テーブルを寄贈いただく)
1	10	給食委託業者決定(H26年度より日清医療食品様へ)
	22	さくま歯科クリニック様歯科検診開始(月2回のペースで継続、歯科協力医契約締結)
	26	介護福祉士・社会福祉士国家試験(介護福祉士3名合格)
3	13	消防査察
	24	通所介護事業所集団指導参加
	25	第3回理事会
	25	居宅介護支援事業所集団指導参加
	26	第2回防災訓練(夜間想定)
	27	しなの園居酒屋開催(特養なし班主催)
	31	福祉施設用地の貸し付けに関する説明会出席(新潟市財務部財産管理運用課)
○ニラク様よりお菓子の寄贈(合計47回)		

第2. 特別養護老人ホームしなの園

1. 利用者の状況

■利用者職員との視点

- ・適切なケアマネジメントサイクルを継続実施するなかで、多職種がチームとしてケアマネジメントに積極的に関わりを持つようになり、個別ケアをチームとして取り組む姿勢が構築できた。
- ・多床室におけるプライベート空間についてケースを絞って実際に検討し、実施してみることが出来た。
- ・認知症のケアへの取り組みとして、周辺症状についての理解や分析をするため記録物の充実に努め、記録に基づいた検討をおこなうことを意識付けた。

■経営の視点

- ・稼働率としては平均98.3%と大きく目標値を達成することができた。目標値達成の要因としては、例年に比べ退所者数も少なかったこと、退所に伴う新規入所まで要する期間が平均約2週間と例年と比べて若干短縮できたことがあげられる。

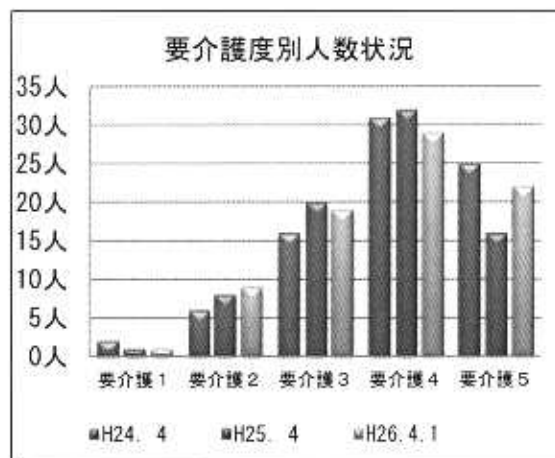
■地域への視点

- ・回数としては多くなかったが、利用者の個別ニーズに応じた外出支援に積極的に取り組むことが出来た。
- ・地域行事への参加は例年通り実施することが出来た。
- ・ボランティアの受入時の対応に関しては、利用者のニーズに応じた参加支援は出来たがボランティアの活動時間帯によっては、より多くの利用者の参加を促すまでには体制を整えることが出来なかった。

業務実施状況

<要介護度別人数>

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H24.4	2人	6人	16人	31人	25人	80人
H25.4	1人	8人	20人	32人	16人	77人
H26.4.1	1人	9人	19人	29人	22人	80人
	1%	11%	24%	37%	28%	



<市町別要介護度状況>

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
新潟市 白根地区	1人	6人	15人	22人	17人	61人
新潟市 新津地区		1人	3人	3人	3人	10人
新潟市 小須戸地区		1人		1人	1人	3人
燕市				2人	1人	3人
五泉市			1人			1人
田上町		1人		1人		2人

<利用実績>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	2290	2464	2381	2470	2465	2380	2459	2347	2422	2401	2186	2,439	28,704
稼働率	95.4%	99.4%	99.2%	99.6%	99.4%	99.2%	99.2%	97.8%	97.7%	96.8%	97.6%	98.3%	98.3%

<入退所状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新潟市 白根地区	入所	3人		1人	1人		1人	1人	3人	1人		1人	13人
	退所	1人		2人		1人		2人	2人		1人		11人
新潟市 新津地区	入所					1人			1人			1人	3人
	退所							1人					1人
新潟市 小須戸地区	入所									1人			1人
	退所									1人			1人
燕市	入所		1人								1人		2人
	退所										1人		1人
五泉市	入所												0人
	退所												0人
田上町	入所	1人						1人					2人
	退所	1人											2人

*入所者合計21名、退所者合計18名

<入所予約状況>

	新潟市			燕市	五泉市	田上町	その他	合計
	白根地区	新津地区	小須戸地区					
H23年度	296人	50人	20人	1人	2人	115人	20人	504人
H24年度	253人	31人	19人	3人	2人	104人	11人	423人
H25年度	271人	9人	13人	2人	2人	129人	10人	436人

2. 医務の活動状況

■利用者との視点

- ・感染症（ノロウイルス、インフルエンザ）対策、感染予防
ノロウイルス発症者はいなかった。
インフルエンザは職員を含めDS・SSの利用者で数名見られたが、特養入所者の発症はなかった。
- ・口腔ケア、肺炎予防
介護職員に痰吸引の指導を行い、夜間の利用者の安全に努めてきた。
1月から歯科往診を開始し、特養利用者で口腔ケア等を希望された方に対して、月2回数ずつ診察してもらうことができた。
- ・褥瘡予防治療、褥瘡発症者の軽減
平均2～3名の治療を行ってきたが、褥瘡ゼロにはできなかった。
- ・利用者・家族が納得出来る看取り
家族との間で問題となるトラブルはなく、信頼関係を築くことができた。
特養退所者18名中16名の方を施設で看取り、家族より感謝の言葉も聞かれた。
- ・家族と一緒に利用者を支えていく体制
家族の意見を聞きながら、利用者個々にとって最適な対応に努めた。
- ・国内研修、医務での勉強会
「糖尿病」「誤嚥、誤飲、異食時の対応」「骨折時の対応」について施設内研修の講師を務め、医療知識の発信につなげた。また、その他の施設内研修に毎月参加し復命を行った。
「接遇」「感染症」「施設における看護師の役割」の外部研修に参加し、復命に努めた。

■経営の視点

- ・処置材料、医療器具等の節約、医療物品の負担等
SS処置材料（ガーゼ、軟膏、テープ等）個人負担分の物品について、利用者・家族に理解を求めてきた。

■地域の視点

- ・行事に参加する利用者の健康面でのサポート
事故なく行われた。

＜月別受診件数（人数）及び延べ日数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	25	11	19	14	14	13	14	14	10	13	22	19	188
延べ日数	51	18	39	36	40	25	30	21	15	16	36	33	360

* 吉沢医院以外も含む(内科、歯科、外科、精神科、眼科、循環器科、整形外科、皮膚科、神経内科、泌尿器科、脳外科)
インフルエンザ0名、感染性胃腸炎0名。

＜月別点滴人数及び延べ日数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	7	4	7	6	7	1	4	4	2	2	1	1	46
日数	55	38	68	61	75	6	48	78	22	11	28	31	521

＜月別血糖A1c、定期血液検査人数＞ 血糖A1cは糖尿病でインシュリン注射の方(毎月)、定期は6ヶ月ごと全利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
血糖	3	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	2	19
定期	17	17	8	14	18	13	15	10	7	16	18	11	164

＜月別診察日数及び人数＞

* () 内は臨時

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
人数	75(1)	79(5)	77	77(4)	81	79(5)	80(3)	79(4)	79(2)	78(2)	78(2)	78(3)

＜月別入院人数及び延べ日数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3	2	2	10
日数	0	0	5	0	0	0	0	11	6	38	11	35	106

結核検診、7月に胸部X線検査実施 78名
インフルエンザ予防接種、10月、11月に実施 特養77名 職員92名
退所状況 当園16名、病院2名 計18名 入所21名

3. 給食の状況

■利用者の視点

- * 利用者のご意見やご要望を聞き、できるだけ意向に添えるように食事提供を行った。
- * 利用者の栄養状態を把握し、その状態に即した栄養管理を実施。
 - ・低栄養状態の方には必要に応じて栄養補助食品を提供し、栄養状態の維持・改善ができた。
 - ・食事摂取不良の方には摂取可能な食事内容や食品の検討を行い、経口摂取の継続ができるように他職種協働で取り組んだ。
 - ・他職種協働で褥瘡予防と褥瘡の早期発見・早期対応が実施でき、発症者が軽減した。

■経営の視点

- * 適正な栄養ケア・マネジメントの継続実施
 - ・新規入所者の栄養ケア計画書の作成及びご家族への説明を適正に実施。
 - ・定期的に栄養状態を確認し、適切なサービス提供を行った。
- * 「喜ばれる食事」の提供
 - ・給食委員会(月1回開催)において給食委託業者との意見交換を実施し、サービス内容の検討を行った。
 - ・給食委員会主催の「喫茶」を年3回実施し、利用者に喜んでいただけた。(7/21、9/15、12/22 実施)
 - ・『しなの園祭り』に際しては給食委託業者に協力いただき、食べ物の提供を行った。(9/29実施)
 - ・給食委託業者の見直し (H26年4月1日より委託業者変更)
 - ・食器入れ替え準備 (H26年5月入れ替え)

《 H25年度 食事形態別食数 》 (単位:食)

月	特養						短期					通所				
	常菜	刻み/ 極刻み	ムース/ ミサー	経管 流動他	合計	1日 平均	常菜	刻み/ 極刻み	ムース/ ミサー	合計	1日 平均	常菜	刻み/ 極刻み	ムース/ ミサー	合計	1日 平均
4	2,609	2,955	879	369	6,812	227	1,176	327	6	1,509	50	414	78	0	492	16
5	2,650	3,302	988	426	7,366	238	1,242	326	7	1,575	51	422	97	0	519	17
6	2,532	2,894	1,110	503	7,039	235	1,146	394	7	1,547	52	427	98	0	525	18
7	2,599	2,899	1,414	423	7,335	237	1,067	398	14	1,479	48	469	127	0	596	19
8	2,528	2,852	1,452	415	7,247	234	1,152	433	11	1,596	51	452	143	3	598	19
9	2,630	2,700	1,347	450	7,127	238	990	507	7	1,504	50	461	140	2	603	20
10	2,832	2,660	1,327	474	7,293	235	1,022	504	11	1,537	50	478	129	1	608	20
11	2,936	2,451	1,089	384	6,860	229	1,013	511	9	1,533	51	444	118	3	565	19
12	3,215	2,488	1,095	395	7,193	232	1,080	458	14	1,552	50	460	134	2	596	19
1	3,531	2,173	1,144	372	7,220	233	1,091	462	8	1,561	50	459	113	3	575	19
2	3,166	1,963	1,003	358	6,490	232	983	505	8	1,496	53	452	61	7	520	19
3	3,534	2,174	1,136	389	7,233	233	1,049	550	12	1,611	52	496	65	8	569	18
	34,762	31,511	13,984	4,958	85,215	233	13,011	5,375	114	18,500	51	5,434	1,303	29	6,766	19

第3. 短期入所生活介護事業

■利用者と職員の視点

○接遇の向上

- ・接遇面に関して毎月目標を定めて行ってきたが、その期間が過ぎるとまた同じ課題が上がるがあった。
- ・リビングの模様替えや物品整理を行い、ご利用者のペースに合わせた快適な生活環境の整備を行った。

○リスクマネジメント

- ・介護事故防止についての話し合いが日々重点的に行え、重大事故は起きなかった。
- ・大きな苦情はなかったが、ご家族やケアマネジャーからの意見要望は報告書として上げ改善を行った。
- ・荷物の忘れ物が度重なる時があった為、荷物の管理や洗濯物の仕分けの方法など見直しを行った。
- ・ご利用中の急変が2件あり、緊急時のマニュアルについての見直しを行った。

○個別ケアの推進

- ・個別援助計画の評価を介護職員で行い、個別ケアへの意識が高まった。
- ・その人に合った、生活の中で無理なく行えるリハビリ（家事・計算問題・園内散歩）を継続して行った。

○チーム力の向上

- ・各種チェック表の見直しを行い、ご利用者個々の留意点を明記する事で職員が行うケアの統一に役立てた。
- ・介護記録を職員間の情報共有やケアを実施した証拠となるよう、意識して記録できるようになった。

■経営の視点

○目標稼働率 93 %

- ・平均稼働率 97.7 %

○他部署、多職種との連携

- ・通所事業と協議し業務の効率化や協力体制などに取り組む。
- ・在宅酸素使用者や痰吸引が必要な方など医療度が高い方を柔軟に受け入れができた。

■地域の視点

○地域との交流

- ・例年通りの地域行事に参加し、ご利用者と職員とも住民の方との交流ができた。

○ボランティアの対応

- ・ボランティアの方々が活動しやすいよう場の雰囲気作りを行った。

<ショートステイ利用実績>

	平成25年度 利用内訳					稼働率	
	利用人数	延べ人数	1日平均	新規利用者	送迎件数	25年度	24年度
4月	55人	584人	19.5人	1人	225件	97.3%	98.0%
5月	53人	606人	19.5人	3人	227件	97.7%	88.7%
6月	57人	595人	19.8人	1人	221件	99.2%	93.2%
7月	53人	589人	19.0人	2人	219件	95.0%	94.8%
8月	52人	636人	20.5人	2人	229件	102.6%	98.9%
9月	57人	591人	19.7人	5人	212件	98.5%	97.2%
10月	52人	590人	19.0人	2人	204件	95.2%	100.3%
11月	56人	587人	19.6人	3人	199件	97.8%	97.2%
12月	50人	590人	19.0人	1人	201件	95.2%	95.2%
1月	47人	591人	19.1人		197件	95.3%	98.4%
2月	51人	568人	20.3人	2人	189件	101.4%	99.6%
3月	48人	608人	19.6人		194件	98.1%	100.8%
合計	631人	7,135人	-	22人	2,517件	-	-
平均	53人	595人	19.5人	2人	210件	97.7%	96.8%

<要介護度別人数状況>

年・月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者人数	人	3人	7人	24人	21人	8人	4人	67人
利用者比率	0%	4%	10%	36%	31%	12%	6%	100%

第4. 通所介護事業

平成25年度概況

■利用者と職員の視点

○接遇の向上

・「おもてなしの気持ち」を念頭に、丁寧な言葉遣いや心遣いを徹底することによって利用者好感をもってもらえることができた。

・接遇班を作ったが具体的な活動に結びつけることができなかった。

○リスクマネジメントの取り組み

・リスクマネジメントについては業務班を作り環境面を中心に整備できた。

○研修の充実

・研修後、復命研修は適宜に行えたが、学んだことを具体的に活かすことができなかった。

○チーム力の向上

・モニタリングは昨年同様定着しており、的確にモニタリングできるようにケース記録の記入について書式の活用法を学んで技術の向上に繋がった。

■経営の視点

○目標稼働率について

・目標稼働率を72%と設定し、最終的に75.5%（1日平均18.9名）と目標は達成できた。新規利用者件数も26名（前年度23名）と増加し、実利用者数が増えたことにより安定した稼働率を維持できていた。

・4～6月の稼働率については伸び悩んでいたが、その後は利用者の定期利用が追加されたり、新規だけではなく既存の利用者からのニーズが増えた。

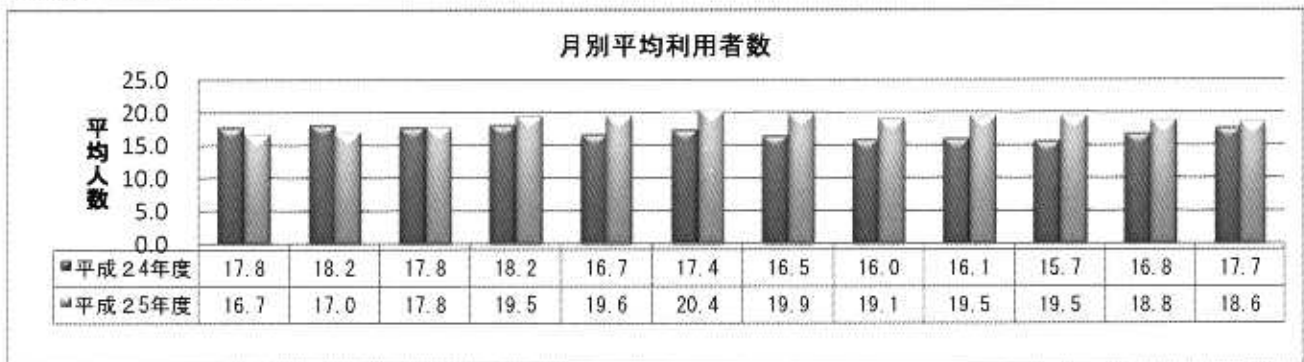
○働きやすい環境や情報の共有について

・在宅連絡会議を実施することにより、通所、短期入所の共通利用者に対し認識を深め、情報共有することで提案、改善、実施に繋げ、協力体制ができた。これを定着させ、引き続き継続していく。

■地域の視点

昨年度同様、地域の行事には積極的に参加、ボランティアも随時受け入れた。しかし、余暇活動として地域への外出はできなかった。

◎月別平均利用者数



◎月別利用実績

月	実利用者数	通所延べ利用者数	予防延べ利用者数	稼働日数	1日平均	新規		稼働率	稼働率(H24)
						前期	当期		
4月	71	415	86	30	16.7	2	1	66.8	71.1
5月	71	427	100	31	17.0	0	3	68.0	72.6
6月	75	428	105	30	17.8	1	3	71.1	71.1
7月	73	503	102	31	19.5	1	1	78.1	72.6
8月	78	505	102	31	19.6	2	5	78.3	67.0
9月	81	516	96	30	20.4	2	2	81.6	69.5
10月	80	512	106	31	19.9	2	2	79.7	65.8
11月	79	482	91	30	19.1	1	1	76.4	64.1
12月	82	506	99	31	19.5	3	3	78.1	64.5
1月	81	480	104	30	19.5	2	1	77.9	62.7
2月	80	438	89	28	18.8	5	2	75.3	67.3
3月	80	478	100	31	18.6	2	2	74.6	70.7
合計		5690	1180	364	18.9	23	26	75.5	68.3

◎介護度別実利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成24年3月	5人 7%	11人 14%	10人 13%	28人 37%	15人 20%	6人 8%	1人 1%	76人 100%
平成25年3月	3人 4%	13人 16%	13人 16%	27人 34%	16人 20%	6人 8%	2人 2%	80人 100%

第5. 居宅介護支援事業

■利用者と職員の視点

○処遇の向上

- ・ケアマネジメントサイクルは、互いに確認や意見交換を行い、適正に実施することができた。
- ・また、内部やサービス担当者と情報共有、意見交換の機会を多く持ち、様々な視点や、多職種からの専門的意見を利用者支援、個別ケアに活かした。
- ・「聴く力」「伝える力」については、コミュニケーションに関する外部研修に参加し、対人援助技術を高めた。

○技術・知識の向上

- ・事例研究会は計画通り実施できた。他事業所や包括と合同で行い、様々な意見を聞くことで、支援の可能性や方向性が広がっている。
- ・各経験年数に合わせた必須研修を修了した。
- ・園内研修で講師を務め、他部署、多職種とケアマネジメントサイクル、チームケアについて共有できた。

○チーム力の向上

- ・定例会議で利用者の情報共有と処遇検討を重点的に取り組んできた。担当利用者の処遇向上と合わせ、他利用者に対しても、担当者に代わって相談を受けることができています。
- ・各外部会議や、退院時カンファレンスへ積極的に参加し、関係者とのネットワークが広がり、利用者の支援に際して連携が図りやすくなっている。

■経営の視点（実績 別紙参照）

○目標レセプト請求数 100件/月 → 実績 99.5件/月

- ・新体制を開始してからの件数は伸びており、目標件数をほぼ達成することができた。地域包括支援センターからの新規依頼が多かった。
- ・通常時間外の訪問は、通常業務時間内に実施できるよう、随時勤務時間を調整し、超過勤務の削減を図った。
- ・記録物の整理については、時間外にまわることが改善できず、今後も課題である。

○特定事業所加算Ⅱ算定維持

- ・9月より主任介護支援専門員を配置し、算定を再開することができた。定例会議の開催、事例研究を含めた専門研修も計画通り実施した。

■地域の視点

○地域との連携、ボランティアの開拓

- ・ボランティアの開拓はできなかったが、地域行事や施設行事の協力は例年通り実施できた。
- ・地域住民から電話や来所による新規相談も多く、積極的に対応した。
- ・南区家族介護教室で講演を行い、担当以外の利用者家族へ情報提供、繋がりを持つことができた。

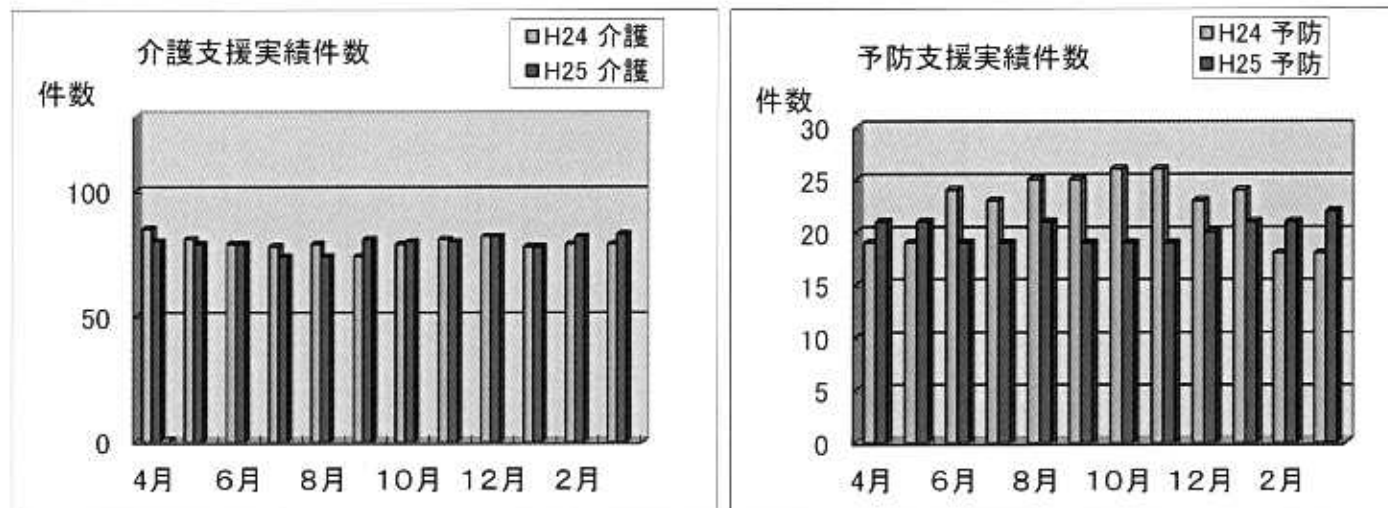
別紙参考資料

1)業務実績(件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	収益(3月分)
H24	介護	85	81	79	78	79	74	79	81	82	78	79	79	79.5	1,174,500
H25	介護	80	79	79	74	74	81	80	80	82	78	82	83	79.3	1,244,000
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	収益(3月分)
H24	予防	19	19	24	23	25	25	26	26	23	24	18	18	22.5	66,600
H25	予防	21	21	19	19	21	19	19	19	20	21	21	22	20.2	87,614

備考
 ・介護給付、予防給付者数合計 H24年度102.0件/月、H25年度99.5件/月
 ・認定調査件数 105件/年(H23年度:108件)
 ・H25年3月(H24年度)から新体制開始、特定事業所加算Ⅱ終了。H25年9月から特定事業所加算Ⅱ再開。

2)実績件数推移



3)介護度別利用者状況(件数)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H24年度3月	2(2%)	16(16%)	16(16%)	31(32%)	21(22%)	9(10%)	2(2%)	97
H25年度3月	4(4%)	18(17%)	23(22%)	27(26%)	20(19%)	11(10%)	2(2%)	105

4)地域別利用者状況(件数)

	新飯田	茨曾根	庄瀬	小林	臼井	その他	計
平成24年3月	21(22%)	18(19%)	35(36%)	15(15%)	5(5%)	3(3%)	97
平成25年3月	23(22%)	21(20%)	38(36%)	12(11%)	4(4%)	7(7%)	105

5)加算状況(年間件数)

	初回	入院時連携	退院・退所	認知症	独居
平成24年度	31	28	22	310	12
平成25年度	30	23	21	326	26

6)相談件数(年間件数)

	相談経路				計	月平均
	電話	文書	来所	訪問		
平成24年度	5072	334	283	3973	9662	805
平成25年度	4368	296	199	4154	9017	751

第6. 社会福祉法人しろね福祉会（管理運営部門）

1. 理事会の開催状況

区 分	期 日 ・ 会 場	事 項
第1回理事会	平成25年5月29日(水) しなの園 ボランティアステーション	(1) しろね福祉会平成24年度事業報告について (2) しろね福祉会平成24年度収支決算報告について ＜監査報告＞
第2回理事会	平成25年10月23日(水) しなの園 ボランティアステーション	(1) 平成24年度事業（上半期）実績報告について (2) しろね福祉会就役員（理事・監事）の選任について (3) しろね福祉会理事長の互選について (4) しろね福祉会理事長職務代理の選任について 委嘱状交付
第3回理事会	平成26年3月25日(火) しなの園 ボランティアステーション	(1) しろね福祉会特別養護老人ホームサービスに関する苦情解決第三者委員の選考・任命について (2) しろね福祉会居宅介護支援運営規程に関する一部改正について (3) しろね福祉会職員給与規程の一部改正について (4) しろね福祉会平成25年度第一次収支補正予算について (5) しろね福祉会平成26年度事業計画について (6) しろね福祉会平成26年度収支予算について

2. 防災訓練実施状況

区 分	第 1 回	第 2 回
訓練の区分	消防計画に基づく総合訓練（昼間）	同 左（夜間想定）
実施の日時	平成25年10月17日（木） 14時00分～16時00分	平成26年3月26日（木） 11時00分～11時50分
実施の場所	調理室から出火を想定し、正面玄関に避難	給湯室から出火を想定し、ぶどう班ラウンジに避難
訓練参加者	・職員：51名 ・利用者：78名	・職員：22名 ・利用者：51名
避難訓練内容	① 火災受信機により火災発生区域の確認 ② 消防署への119番通報 ③ 園内への避難放送 ④ 利用者の避難誘導 ⑤ 消火器、補助消火栓を使用し、初期消火	① 火災受信機により火災発生区域の確認 ② 消防署への119番通報 ③ 園内への避難放送 ④ 利用者の避難誘導 ⑤ 消火器を使用し、初期消火
講評・反省事項等	① 避難の際、職員間で声を掛け合うことができると、よりスムーズに避難できると思う。 ② 訓練の時は急いで行動すると怪我の原因になるので落ち着いて行動してほしい。 ③ 避難誘導の際、煙を吸わないようにタオルを用意していたが活用していない職員がいたので徹底したい。 ④ 煙体験では周りが見えにくくなるので避難する際は体勢を低くした方がよい。 ⑤ 避難の際は出火場所と避難経路をしっかりと把握しておくことが大事である。	① 避難誘導の際、利用者が動揺しないように声かけが大切である。 ② 役割分担を明確にしておくことで的確に行動でき早く避難できると思う。 ③ 避難誘導の際、行動の無駄を排除し、効率的にする。 ④ 職員が的確に行動できるように繰り返し訓練することが大切である。 ⑤ 初期消火は消火器、消火栓の設置場所を把握しておくことで迅速に行動できると思う。
その他（防災訓練）	消防職員・消防設備業者の指導のもと職員対象に下記の訓練を実施 1. 煙体験 2. AEDを用いて一次救命訓練 3. 竿、毛布を使用して担架を作り搬送訓練 4. 水消火器を用いて消火訓練 5. 消火栓を用いて放水訓練	消防設備業者の指導のもと補助消火栓の取り扱い方法の説明と実際に消火栓を使用して放水訓練を実施

3. 研修参加の状況

【外部研修】

NO	研 修 名	研修期間					研修内容	参加人数	日数	延べ人数
		年	月	日	～	月 日				
1	医療依存度の高い高齢者へのケア	25	5	21		5 21		2	1	2
2	社会福祉施設新任職員研修		5	30		5 31	社会福祉の理念・動向 他	1	2	2
3	接遇研修（初任者コース）		6	5		6 5	接遇の基本～福祉サービスの心構えとマナー～	3	1	3
4	介護スタッフのための接遇マナー研修		6	12		6 12	介護現場における接遇マナーの5大原則	3	1	3
5	接遇研修（リーダーコース）		6	13		6 13	接遇対応の基本、リーダーの役割	2	1	2
6	接遇研修（初任者コース）		6	17		6 17	接遇の基本～福祉サービスの心構えとマナー～	2	1	2
7	社会福祉施設新任職員研修		6	24		6 25	社会福祉の理念・動向 他	2	2	4
8	社会福祉施設中堅職員研修		6	27		6 28	自律的問題解決、福祉サービスの実践 他	2	2	4
9	社会福祉施設新任職員研修		7	1		7 2	社会福祉の理念・動向 他	3	2	6
10	認知症ケア・対応研修		7	3		7 3	認知症疾患の理解、社会的理解 他	2	1	2
11	社会福祉施設中堅職員研修		7	8		7 9	自律的問題解決、福祉サービスの実践 他	2	2	4
12	伝える力研修		7	10		7 10	話し方、組み立て方、多彩な手法	1	1	1
13	特定給食施設指導会（栄養管理）		7	11		7 11	食中毒予防 他	1	1	1
14	看護師職能Ⅱ研修		7	23		7 23		1	1	1
15	虐待予防・対応研修		7	29		7 29	福祉従事者による虐待について	1	1	1
16	社会福祉施設中堅職員研修		8	5		8 6	自律的問題解決、福祉サービスの実践 他	1	2	2
17	地域福祉コーディネーター育成研修		8	6		8 7		1	2	2
18	コミュニケーションスキルアップ研修（初任者）		8	21		8 21	コミュニケーションの基礎、苦手意識の克服	5	1	5
19	災害対応研修		8	23		8 23	福祉施設としての防災の基本、備え	2	1	2
20	メンタルヘルス研修（一般）		9	3		9 3	メンタルヘルスの基礎知識 他	4	1	4
21	コミュニケーションスキルアップ研修（リーダー）		9	4		9 4	職場における効果的なコミュニケーションツール	5	1	5
22	特定給食施設指導会（栄養管理）		9	5		9 5	給食施設における防災への備え 他	1	1	1
23	社会福祉施設指導の職員研修		9	9		9 10	社会福祉の理念・動向 他	1	2	2
24	介護支援専門員実務従事者基礎研修		10	1		11 23		2	5	10
25	職場研修担当職員研修（初級）		10	2		10 3	職場研修の考え方と推進方法 他	1	2	2
26	終末期ケアのあり方		10	24		10 24	看取りケア確認シートの活用法 他	4	1	4
27	認知症介護実践者研修（1日目）		10	29		10 29	新しい認知症介護の理念の構築	1	1	1
28	認知症介護実践者研修（2日目）		10	31		10 31	コミュニケーション、医学的・心理的理解 他	1	1	1
29	認知症介護実践者研修（3日目）		11	1		11 1	生活の質の保障とリスクマネジメント 他	1	1	1
30	認知症介護実践者研修（4日目）		11	5		11 5	人的、住居、地域社会環境を考える	1	1	1
31	認知症介護実践者研修（5日目）		11	7		11 7	生活支援方法、家族の理解・高齢者との関係の理解	1	1	1
32	リーダーのための接遇マナー研修		11	15		11 15	コミュニケーションの基本 他	3	1	3
33	結核感染症研修		11	25		11 25	結核の現状と介護施設での感染対策	1	1	1
34	認知症介護実践者研修（中間報告会）		12	5		12 5	実習中間報告	1	1	1
35	認知症ケア・対応研修		12	10		12 10	認知症疾患の理解、社会的理解 他	4	1	4
36	社会福祉トップセミナー		12	11		12 11	社会福祉施設・事業所の事業計画（BCP）	3	1	3
37	社会福祉法人経営実践セミナー		12	17		12 17	地域福祉の時代の社会福祉法人の経営と地域貢献	1	1	1
38	認知症介護実践者研修（成果報告会）	25	1	16		1 16	成果報告、修了式	1	1	1
39	認知症介護実践者研修（総括講座）		1	17		1 17	総括講座	1	1	1
40	第2ブロック部会研修		1	22		1 22	施設が求める主任・リーダーのあり方	4	1	4
41	企画研修		1	27		1 27	介護期・終末期リハビリテーション	2	1	2
42	第1ブロック部会研修		1	30		1 30	介護施設における業務標準化のすすめ	1	1	1
43	応急手当普及員講習（第1回目）		2	5		2 5		2	1	2
44	応急手当普及員講習（第2回目）		2	12		2 12		2	1	2
45	応急手当普及員講習（第3回目）		2	19		2 19		2	1	2
46	ケアマネ研修（保健師に学ぼう!）		2	20		2 20	アセスメント面接の技	2	1	2
47	新潟市老人福祉施設運営協議会主催研修		2	21		2 21	介護職のための記録の書き方の基本	2	1	2
48	特別養護老人ホーム看護職員研修		2	24		2 24	特養看護師が果たすべき役割と機能	1	1	1
49	応急手当普及員再講習		3	5		3 5		1	1	1
50	新潟市認定調査員従事者研修		3	12		3 12		3	1	3
51	新潟市認定調査員従事者研修		3	14		3 14		3	1	3
合計								100	64	122

【内部研修】

NO	研修名	研修期間					研修内容	参加人数	日数	延べ人数	
		年	月	日	～	月					日
1	リスクマネジメント研修	25	4	15		4	15	リスクマネジメントの基礎	17	1	17
2	リスクマネジメント研修		5	30		5	30	リスクマネジメントの基礎	7	1	7
3	感染症研修		5	13		5	13	食中毒について	12	1	12
4	感染症研修		5	27		5	27	食中毒について	14	1	14
5	医務研修		6	10		6	10	骨折時の対応について	12	1	12
6	医務研修		6	24		6	24	誤嚥、誤飲、異食時の対応について	20	1	20
7	介護研修		7	8		7	8	介護の基本	13	1	13
8	介護研修		7	22		7	22	介護の基本	10	1	10
9	介護福祉機器導入研修		8	1		8	1	ストレッチャーの使用方法について	9	1	9
10	褥瘡研修		8	26		8	26	褥瘡予防について	14	1	14
11	褥瘡予防対策研修		9	2	～	9	8	スライドボード、リフトを使用して		5	40
12	倫理研修		9	9		9	9	倫理、コンプライアンス、虐待予防	16	1	16
13	倫理研修		9	24		9	24	倫理、コンプライアンス、虐待予防	8	1	8
14	感染症研修		10	15		10	15	感染性胃腸炎、インフルエンザ予防	12	1	12
15	感染症研修		10	28		10	28	感染性胃腸炎、インフルエンザ予防	15	1	15
16	ケアマネジメント研修		11	11		11	11	ケアプランについて	20	1	20
17	ケアマネジメント研修		11	25		11	25	ケアプランについて	12	1	12
18	介護研修		12	9		12	9	清潔について	18	1	18
19	看取り研修	26	1	13		1	13	終末期ケアについて	14	1	14
20	看取り研修		1	27		1	27	終末期ケアについて	13	1	13
21	介護復命研修		2	10		2	10	認知症ケアについて	13	1	13
22	介護復命研修		2	24		2	24	認知症ケアについて	7	1	7
23	医務研修		3	10		3	10	糖尿病について（BSチェック等）	14	1	14
24	医務研修		3	24		3	24	糖尿病について（BSチェック等）	13	1	13
合計								303	28	343	

（研修参加の状況）

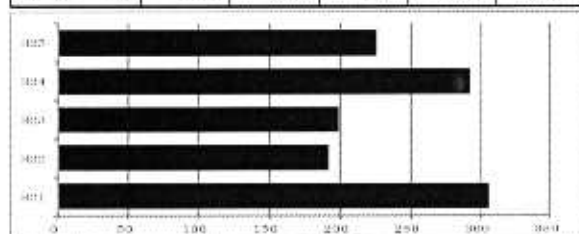
平成 25 年度外部研修の参加状況については、ほぼ例年通りであった。ただし、新潟県社会福祉協議会主催の階層別・テーマ別研修では、経験年数等を考慮しながら受講申込みを行ったが、人気の高い研修に関しては受講できない場合も多くなってきている。各施設とも職員のスキルアップ等に力を入れていることがうかがえる。引き続き多くの職員・職種が参加できるよう配慮していきたい。また、25 年度は職員が目的を持って研修に参加するように報告書の書式を変更し、上司とともに研修の振り返りが行えるようになってきている。成果として、内部研修（定期研修）において外部研修受講者が講師となって復命研修を行う機会が多くなってきている。内部研修に関しては、年々マンネリ化してきていたが、復命研修を行うことで情報共有と各職員のスキルアップにつながることを期待している。今後も各職種の職員が情報伝達・発表する機会を増やしていきたい。

4. 実習生受け入れ状況

実習名	人数	延べ日数	実習依頼校
介護福祉士	7	129	新潟医療福祉大学 日本福祉医療専門学校 新潟青陵大学 新潟医療福祉カレッジ
介護職員初任者	1	13	介護労働安定センター
ホームヘルパー2級	14	36	ニチイ学館 三幸福祉カレッジ
社会福祉援助技術	2	48	新潟医療福祉大学 国際こども・福祉カレッジ
計	24	226	

(年度別推移)

年度	H21	H22	H23	H24	H25
実習延べ日数	306	192	199	292	226



平成 24 年度と比較すると、受け入れ人数が減少傾向にある。原因として、ヘルパー資格が廃止となること、福祉系の学生数が減ってきていることが考えられる。また、自宅からより近い施設が実習先となることから 25 年度は近隣に学生がいなかったことも影響している。

実習生受入は、職員のスキルアップに繋がること、また施設の PR にもなるため今後も可能な限り柔軟な対応を行っていきたい。

5. 事故発生状況

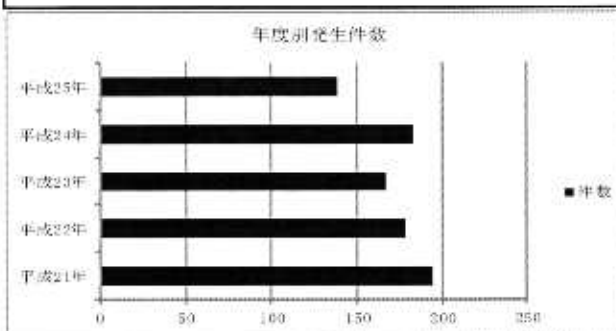
【月別件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	14	9	9	17	13	12	10	4	13	7	16	15	139

【状況別件数】

	全体	特養	SS	DS
転倒等(異常なし)	27	19	7	1
転倒等(受傷あり)	14	12	1	1
転落等(異常なし)	12	12	0	0
転落等(受傷あり)	4	4	0	0
誤薬	8	8	0	0
誤嚥	3	3	0	0
その他	71	64	5	2
計	139	122	13	4

※骨折事故 5 件(特養 4、ショート 1)
転倒による骨折 4 件、その他 1 件



平成 25 年度事故件数としては、前年度までを大きく下回っている。ただし、骨折事故が特養・ショートステイ合わせて 5 件発生している。骨折のような重大事故については新潟市への報告が義務づけられており、この 5 件についても状況および改善報告書を提出している。近年歩行される方の入所・利用が増えてきていることから転倒、骨折のリスクが高まってきた。このようなことから、職員個々のリスクマネジメント意識を高め、変化への気づきと情報共有により、利用者にとっての安心・安全な環境整備およびサービス提供に努めていきたい。

6. ボランティア受け入れ状況

1) 来園ボランティア

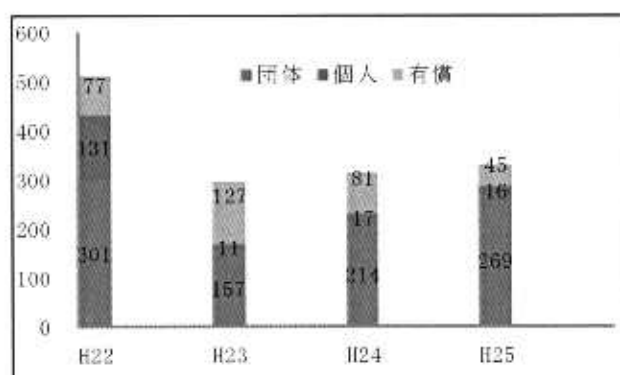
日付	ボランティア名	区分	人数	日付	ボランティア名	区分	人数
H25 4月1日	麗人会	団体	4	9月29日	庄神會	団体	10
4月5日	滝沢文子	個人	1	9月29日	白根小唄承音頭保存会	個人	1
4月21日	白根ローターアクトクラブ	団体	9	9月29日	フラ君子スタジオ	団体	4
4月28日	ブルースカイズ	団体	9	9月29日	青陵Jアカペラサークル	団体	4
4月29日	サンライズ	団体	9	9月29日	国際こども福祉カレッジ	個人	1
5月3日	滝沢文子	個人	1	9月29日	新潟医療福祉大学	個人	1
5月8日	麗人会	団体	4	9月30日	おりづる	団体	7
5月10日	なかよし会	団体	6	10月4日	滝沢文子	個人	1
6月3日	麗人会	団体	4	10月7日	麗人会	団体	4
7月1日	麗人会	団体	4	10月9日	おりづる	団体	7
7月5日	滝沢文子	個人	1	11月1日	滝沢文子	個人	1
7月29日	おりづる	団体	8	11月5日	麗人会	団体	4
8月2日	滝沢文子	個人	1	11月11日	おりづる	団体	8
8月5日	麗人会	団体	4	11月27日	コーラスふるさと	団体	6
8月5日	白南中学校	個人	2	12月3日	麗人会	団体	4
8月7日	白南中学校	個人	1	12月4日	おりづる	団体	7
8月19日	おりづる	団体	8	12月6日	滝沢文子	個人	1
9月2日	麗人会	団体	4	12月12日	なかよし会	団体	6
9月4日	おりづる	団体	6	H25 1月31日	おりづる	団体	8
9月6日	滝沢文子	個人	1	2月7日	滝沢文子	個人	1
9月8日	肢体不自由児父母の会	団体	18	2月13日	なかよし会	団体	6
9月9日	そよ風保育園	団体	53	3月3日	麗人会	団体	4
9月11日	エアジャパン	団体	20	3月7日	滝沢文子	個人	1
9月15日	サンライズ	団体	10				

2) 月別来園者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体	31	10	4	12	12	136	11	18	17	8	6	4	269
個人	1	1	0	1	4	4	1	1	1	0	1	1	16
有償	4	5	4	4	4	3	4	3	3	4	4	3	45
合計	36	16	8	17	20	143	16	22	21	12	11	8	330

3) ボランティアの推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
団体	301	157	214	269
個人	131	11	17	16
有償	77	127	81	45
合計	509	295	312	330



平成25年度ボランティア総数としては、前年度を上回っている。しかし、ボランティアの登録者で見ると、新たな団体又は個人の登録者は殆どない状況となっている。

平成25年度も11月にボランティア感謝祭を開催し、1年間活動していただいた皆様と交流を図ることができた。受け身の姿勢ではなく、もっと施設側からの積極的な働きかけが必要ということで、南区役所と南区社会福祉協議会にボランティア募集広告の掲載を依頼した。

今後もボランティア委員会が中心となって、外部への働きかけを強化していきたい。